

「流行予測 AI を活用した「感染症予報サービス」の社会実装及び MaaS 連携」
事業概要

1 さいたま市の目指す将来像

市民生活を構成する様々な分野において公・民・学が連携し、AI・IoT・データ等を活用した新たな生活支援サービスを提供、市民の QOL 向上につなげていく。

2 本事業で実装を目指す主な内容

以下の3つのデータ・技術・手法により、予報をもとに感染症を予防していくという新しいライフスタイルを構築することで、市民の QOL を向上させるとともに、感染症の予防を通じて、経済的損失及び社会保障費の抑制を目指す。

- (1) 日本医師会 ORCA 管理機構の罹患者数統計データ
- (2) 日立的 AI 技術の知見を活用し、機械学習を用いた予測エンジン
- (3) 流行予測と併せて予防関連情報も配信(ナッジ)

3 展開の可能性

(1) 全国民に共通する関心事

いまや天気への関心と同等以上の関心を集め、予報情報に対するニーズは極めて高い。うえ、感染症がもたらす経済損失に鑑みれば、全国、どの地域でも実施する意義が高い。

(2) 全国をカバーするインプットデータ

「ORCA サーベイランス」の全国 4000 以上の医療機関データをもとに流行予測 AI 技術を用い、地域別に予報サービスを提供可能。今後対応する感染症の種類を拡張するとともに、予報メッシュの詳細化により、多くの地域で求められるサービスになると考える。

(3) MaaS 連携など分野横断のイノベーション

メッシュの細かい予報が可能になると新たなサービスにつながると考えられる。例えば、感染症予報と連携した新しい保険商品による補償サービスや、感染症流行地域を回避する MaaS など、産業分野を横断したイノベーションの実現が期待される。

4 これまでの取組と今後の展望

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 令和元年度 | さいたま市内を1エリアとしてインフルエンザ予報 |
| 令和2年度 | さいたま市内を北部と南部に分けてインフルエンザ予報 |
| 令和3年度 | 埼玉県全域に予報を拡大(ただし、さいたま市はエリア分けせず) |
| 令和4年度 | さいたま市北部エリアを区単位に分けて予報 |
| 令和5年度 | さいたま市全域で区単位での予報 |
| 令和6年度 | 関東全域での市区単位での予報 |
| 令和7年度 | 全国での市区単位での予報 |